



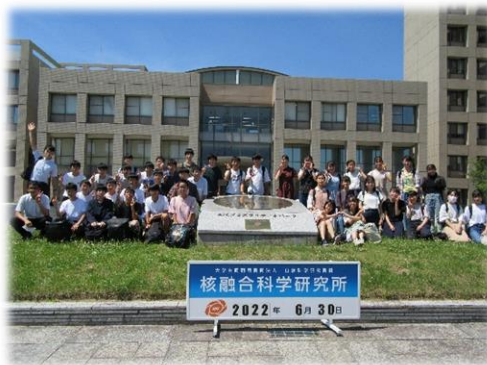
飯田高校便り (校長版)

令和4年7月15日

【第3号】

核融合科学研究所(NIFS)に行ってきました。

本校の理数科は、平成11年(1999年)4月に設置されて以来、今年度で24年が経ちます。理数科は、理数科目をより多く学ぶことはもちろんですが、自然科学分野の課題探究学習や校外学習なども積極的に取り入れ、学究する意欲・能力の涵養に力を入れています。理系学部への進学に加え、理数の強さを生かし、文系の難関大学へ進学する生徒もあり、国内外の様々な場面で活躍しています。



理数科の特徴的な学びの一つである校外学習、これまで2年間はコロナ禍のため残念ながら実施できていませんでしたが、今年度は、6月30日(木)に岐阜県土岐市にある「核融合科学研究所(NIFS)」に2年生が行ってきました。内部はメンテナンス中ということで見学できなかったようですが、実物模型に触れたり、また関係者の講義、施設内の見学等を通して知的好奇心が大いに刺激されたことが、下に掲載した松澤望さんの感想からもよくわかります。



理数科の今年度の主な活動としては、時間割に組み込まれている「理数探究基礎」(1年生)や「課題研究」(2年生)の他、京都大学への訪問(8月下旬)、信州サイエンスキャンプ事業への参加、総合研究大学院大学との連携等が予定されています。

今回の学習で一番印象的だったのが、間近にコイルの一部をみることでできたことです。大きさはもちろんプラズマを閉じ込めるために工夫されたねじれたコイルは迫力がありました。複雑な形にもかかわらず、高度な技術を持つ職人が溶接している事、高温に耐える金属まで研究している事など、新しく知る事がたくさんあり、プラズマをつくる研究が進んでいることが分かりました。さらに、講義を聞いて、核融合のイメージが大きく変わりました。今までは、核融合という言葉になじみがなく、よく分からなかったのですが、仕組みを教えてもらい、プラズマの仲間オーロラや蛍光管などがあり、身近に感じられました。そして、核融合発電ができれば貴重なエネルギーになることを知って可能性を感じます。未来に役立つ研究は素晴らしいことで、改めて興味を持ちました。

